

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。秋になって空の青さがきわだつ季節になりましたね。日没も5時台となり放課後活動に熱が入ると外は真っ暗です。動物園でも閉園間際になると何となく薄暗くちょっと寂しい感じがします。でも「ドキドキ体験」コーナーは、すいている日がありじっくりと観察するには最高です。今日は、猛禽類のフライトからの発見です。

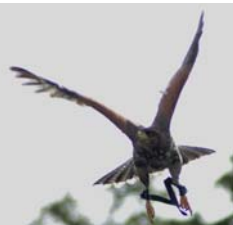


この子、以前紹介しませんでしたか？そうです、アメリカワシミズクの「バンジョー」君です。今月から彼のフライトの様子を見ることができるのです。世界のフクロウのなかまは、熱帯地方から北極まで、約150種、ハトくらいの小型から翼をひろげると150センチ以上にもなる大型までさまざまな種類がいます。日本には10種類、中型のものが平地から山林、森などでくらしています。「フクロウは夜行性だから昼は目が見えない」と思っている人がいますがじつは昼間も見えていて、遠くのグローブの上の小さな肉片(餌)を見つけて飛んできます。羽根が柔らかく、風を切る音が全く聞こえないのも彼らの特徴の一つです。



無事に餌のあるグローブに着地したと思ったら、今度は足下の餌に気づきません。実は、鳥類は眼球をあまり動かすことができません。とくにフクロウのなかまは眼球が固定されています。さらに視野は110度ぐらいしかないため(ヒトは170度ぐらい)首を回して見るのですが1回転はできません。意外と見えていないのですね。

一緒にフライトをしているのはタカの仲間のハリスホークの「ロメオ」君です。猛禽類は肉食なので獰猛だと思っ



ている人も多く、ヒトを襲うと思っている人もいますが、ハチやイヌに襲われて死亡する人はいても、ワシやタカ、フクロウに襲われて死亡している報告はありません。右のようにお客様の手にもとまってくれます。からだの大きさと比べてものすごく軽いということがわかります。また、風を切るようすも目の前で確認できますよ。皆さんも目の前で彼らのすばらしさを観察してみませんか。(フクロウ目フクロウ科、タカ目タカ科)



「ピリカ」その後



4月の一般公開時には赤ちゃんだった「ピリカ」もすっかり大きくなり顔つきもホッキョクグマらしくなりました。泳ぎの方もとても上手になり動物の成長ってとてもはやいものだと感じさせられます。でも、行動の方はまだまだこどもですね。この日も、お母さんの「ララ」とじゃれていました。この関係はいつまで続くのでしょうか。あまり長くはなさそうですよ。

この6ヶ月、動物園での観察を続けてきたのですが、いつも答えが一つになるとは限らないことも発見です。観察したことや調べたことを正確に表現することが大切であることも大事は力の一つであることも感じました。まだ、みなさんの課題テキストは見えていませんが、きっと自分の目や耳で確かめた事実をいろいろな表現で整理してあることだと思います。楽しみですね。では、また。